

## 令和7年度 第2回安曇野市博物館協議会 会議概要

1 会議名 令和7年度 第2回安曇野市博物館協議会

2 日時 令和7年10月24日(金) 午前10時から正午まで

3 会場 安曇野市役所本庁舎3階 会議室305

4 委員出席者 柳澤委員、伊藤委員、小野委員、金井委員、城戸委員、笛本委員、西澤委員、三原委員

6 事務局出席者 洞教育部長、三澤文化課長、豊科郷土博物館兼穂高郷土資料館原館長、安曇野市美術館清澤館長、田淵行男記念館兼飯沼飛行士記念館中田館長、穂高陶芸会館藤松館長、高橋節郎記念美術館宮沢館長、貞享義民記念館寺島館長、臼井吉見文学館平沢館長、逸見博物館担当係長、土屋博物館担当主査、佐野文化振興担当係長、加藤文化振興担当主査

7 公開・非公開の別 一部非公開

8 傍聴人 4人 (うち記者 1人)

9 会議概要作成年月日 令和7年11月11日

## 協議事項等

## ○会議の概要

## 1 開会 (文化課長)

## 2 あいさつ (教育部長)

- ・今年度は市制施行20周年記念事業ということで、各館で特別な展示などに取り組んでいる。節目ということもあり、市民の皆様をはじめ、来館の皆様に改めて安曇野市の文化芸術の魅力をお伝えできているのではないかと考えている
- ・安曇野市美術館は大規模改修工事を7月に終え、8月30日にリニューアルオープンした。今後も末永く市民の皆様から愛される美術館となるように、一層活動の充実を図ってまいりたい。
- ・本日の協議会では委員の皆様に各館の半年間の活動について改善点のご意見等を頂戴し、下半期の活動に生かしてまいりたい。
- ・また今回は「子ども向けの取組みの充実」について効果的な手法、それから子どもたちの来館を促す取り組みなどを、ご教示いただければ。

## 3 報告・協議

## ■令和7年度各館事業進捗報告及び今後の予定

## 会長

- ・事前に委員の皆さんに資料が送付されている。委員の皆さんから感想・質問・ご意見等をいただきたい。

## 委員

- ・田淵行男記念館の「むしの会」について。257人という延べ人数であり、非常に特徴のある行事だと思う。新しいメンバーが参加している傾向があるのか、あるいは、リピーターが多い、定着している感じなのか。

### 田淵行男記念館

- ・こども自然観察教室「むしの会」は、小学3年生から中学3年生までの子どもに加え、保護者、子どもたちの面倒をみてくださるボランティアの方が参加してくださる。
- ・ボランティアの方に関しては当初から参加をしてくださっている方が非常に多い。
- ・子どもたちに関しては、小学3年生から入っても中学3年生で一応ひと区切りになるので常に入れ替えがある。ただ、高校生になってから、今度はボランティアとして参加してくれている子どもたちもいる。
- ・コロナ以降、非常に参加者が増えた。
- ・安曇野市に関わらず、松本や、北の方、北安の地域からも参加者がいる。

#### 会長

- ・田淵行男を継いでくれるような研究者が今の高校生のような動きの中から出てくれると思ったら、これが博物館にとって最も良い成果である。

#### 委員

- ・安曇野ガラス工房の40周年記念展を鑑賞した。複数の優秀な作家が制作した、貴重、かつ、斬新なガラス作品を鑑賞でき、本当にありがたい企画展だった。
- ・鑑賞した友人らと話す中で、ガラス作品の制作プロセスの紹介があればさらに深く興味を持って鑑賞できたと意見が出た。

### 安曇野市美術館

- ・同様の意見をいくつか頂戴した。制作プロセス等の紹介も検討していたが、当美術館の工事期間中にガラス展の搬入が始まったこともあり、難しかった。
- ・ガラス展に限らず、展覧会を行う際、ワンランク上がって鑑賞していただけるような手立てが必要と感じた。

#### 委員

- ・安曇野ガラス工房の40周年記念展を鑑賞した。新しい作家、感覚の作家が沢山いて、新鮮な驚きがあつて良かった。常設展についても、良い彫刻が展示してあった。
- ・子ども向けの取り組みについて。穂山美術館ではワークショップを飛び入り参加でも受け入れている。大変とは思うが、夏休みの間だけでも飛び入りで簡単なワークショップを受けられればいいのではと思う。

#### 会長

- ・当市の美術館、博物館の学芸員はほとんどが非正規。飛び入り参加のワークショップのようなことをやっていくためにも、当協議会として、学芸員を正規に採用してほしいということを要望しつつ、やれることをやっていただくしかないと思う。

### 安曇野市美術館

- ・おっしゃっていただいた通り。意外性のあるものや飛び入りであるとか、細かい変化に対応していくワークショップであるとか、そういったものがこれから求められてくると感じている。
- ・丁寧にニーズに応えていかないと、なかなか来館者が欲しているような、創作活動とか鑑賞活動にはなっていかないので、これから丁寧にやっていきたい。

#### 会長

- ・学芸員が忙しすぎると、新しいところを見ている暇がない。ある程度研究時間が与えられないことには、社会が今どういう動きをしていて、どこに新しい光が当てられようとしているかも気が付かない。美術館・博物館で働く人の環境をいかにして良くしていくか、本協議会が考えていかなければいけない点だと思う。

### 豊科郷土博物館

- ・一般向けのワークショップもやるが、子ども向けには学校単位でやりたいと思っている。学校に出向く場合は準備が結構大変。来館してもらう場合では、来館できる子どもしか

来られない。職員の人数が少ないので、こちらから学校に出向くのと、来館してもらうのと、どうバランスをとっていくかが大変。友の会のボランティアに手伝ってもらうことが多くなつた。

#### 会長

- ・私が知る限り、県内で最も地域に入ろうとしているのが豊科郷土博物館かと思う。

#### 委員

- ・豊科郷土博物館から刊行物、「日中戦争と太平洋戦争下の安曇野の人々」と、ブックレットを送っていただき読ませていただいた。たくさんの調査を行い、あのような展示が出来上がつたことを知り、大変なことを一生懸命されていることに感動した。

#### 豊科郷土博物館

- ・今回の企画展は意外と大変だった。資料を借りたりするのも大変であるし、結構時間かけて信頼関係を築く中でできた企画展だった。

#### 委員

- ・豊科郷土博物館の戦後80年の企画がタイミングで良い企画だった。
- ・広報で台湾からの修学旅行の誘致の記事を拝見した。例えば天蚕センターが国内唯一の天蚕に関する施設であるとするなら、来日された際のプログラムに組み込むなど、国外の人にも安曇野市を知ってファンになってもらつてはどうか。将来安曇野に住んでくれるかもしれない。

#### 事務局

- ・台湾の修学旅行は学校施設の見学を中心に行われた。市の文化施設のお土産等を渡して文化を紹介する機会にもしている。台湾の学校が回りたい場所に行くようになっているので、その中に文化施設も立ち寄つてもらえるように相談していきたい。

#### 委員

- ・学校現場では時間が限られている中で、学習指導要領に定められたことに加えて、地域や行政からの依頼をどう受けていくかが課題となっている。どの授業・教科で扱うか、学習指導要領に則った内容をどこかの美術館・博物館で授業としてサポートしていただけるような形だと、先生方にとってもありがたい。
- ・体験して終わりではなく、子供たちが学んだことを活かして探究的に繰り返すようにしていきたい。

#### 委員

- ・安曇野市美術館の冬の特別展「ミュージアムワンダーラーム」に非常に期待している。非常に注目されている中堅若手のアーティストが揃う展示。県内の美術ファンに響く企画により、安曇野市美術館の新しいアクションを公に広めていければと思う。
- ・観光客の集客に限らず、松本市からなど、市外からの人の動きも重要だと思う。
- ・豊科郷土博物館でボランティアや友の会によるサポートの話が出たが、それには学芸員の正規雇用が重要。正規の学芸員のもと、ボランティア活動や友の会の動きが伸びていくと思う。
- ・来年度の企画で、美術館でも文書館でも望月桂の名前が出ている。市全体を美術館と見立て、美術館・博物館ごとに展示があつて連携しているのは非常に意味を持つこと。
- ・望月桂は東京の国立近代美術館も関心を持っているアーティストだが、その検証・評価を国立近代美術館でやるよりも、安曇野市でやつた方が良いと信じている。美術のカテゴリの中での検証は限界があるが、安曇野市での検証であれば、美術、地域の歴史、国際的な社会といった、いろんなネットワークの中で望月の姿を浮かび上がらせることができる。

#### 委員

- ・安曇野市の美術館・博物館が望月桂を検証していくとは、どういったことに取り組むということか。

委員

- ・美術史という1本の流れの中に望月を置くことも大切だが、それに加えて、時代の文脈、社会的背景、なぜ望月はそう動いたのかということを丁寧に読み取る作業が必要になる。美術館、博物館、文書館、あるいは地域の学校でもいいかもしれないが、そういった人たちのネットワークの中から読み取られる望月像が、今、美術を考える上で非常にインパクトのあるものになるのではないかということ。

委員

- ・市誌編さんの事務局について今の状況を知りたい。

事務局

- ・博物館担当の中で市誌編さんの委員会を設け、そこを中心に進めているところ。
- ・市誌編さん室のようなセクションを設けられれば良いのだが、なかなかそこまでの体制が今は築けないという状況。
- ・しかしながら、昨年度末に自然部会を立ち上げ、今は3部会で進めている。文化課の中で着実に進めていきたい。

委員

- ・部会をいくら作っても、どこでどう相談して動いていけばいいのかわからないところがある。できるだけ早く編さん室を設けるように、少なくとも中心になる人が常駐していて、対応していただけるように、少しでも前に進んでいただけたら。

## ■「子ども向けの取組み」について

事務局

- ・小中学校がどのように利用してもらえるか、子どもたちがどのように博物館・美術館を利用していくべきかという方策を委員の皆様からアイディアをいただきたい。

委員

- ・保育園、幼稚園、小学校低学年を対象に、パワーポイントで各館の紹介をしてはどうか。それをきっかけにご家族と美術館・博物館に足を運んでもらえるのでは。

委員

- ・子どもたちの、主体的に何をしたい、深めていきたい、を活かせるようなサークルやクラブがあれば、大学に進学したり、学芸員をやりたい子供が育っていくのではないか。
- ・中学校の部活動が地域移行推進されている中で、博物館や美術館などが受け皿になる可能性があるのでは。
- ・美術館・博物館の入場料について、既に小学生、中学生、70歳以上は無料の施設が多いが、高校生・大学生も無料にしてはどうか。

田淵行男記念館

- ・当館の「むしの会」の活動費用は友の会が支出している。友の会がある施設は協力して活動していくのも一つの手かもしれない。

豊科郷土博物館

- ・当館の学芸員の中に校長先生だった方がいる。その方が中心となって学校と交渉してくれる。学校とのコーディネーターみたいな方がいるので、うまくいっている。

委員

- ・資料2（各館の現状の子ども向けの取り組みをまとめた表）について。学校側が使いやすいように、授業科目、必要な時間、打合せに必要な時間などでソートをかけられるようになれば良いかもしれない。また、各館で重複して行っている取り組み

が見えてくれば、どこかの館でやるようにしてもう少し簡素化できるかも。

- ・資料2を見ていると、様々な取り組みを行っているが、D&I（ダイバーシティ（多様性）&インクルージョン（包括性））の取り組みが無いと感じた。貞享義民記念館などでD&Iの取り組みも広がっていくと面白いかも。

委員

- ・安曇野市の先生だけのサイト「ティーチャーズポータルサイト」に資料2のようなものをアップすることぐらいはできるかもしだれない。先生たちが授業づくりの参考にしたり、子どもたちが主体的に行ってみたいとなるのは良いと思う。

委員

- ・意外と小学生・中学生は動きづらい。保育園児は比較的動きやすいので、美術館・博物館に連れてきて、最初の作品との出会いの場を作っていくのもいいかも。
- ・毎年、市内の公立中学校に新たに赴任してくる教員は何人ぐらいか。

委員

- ・100人くらい

委員

- ・新たに赴任してくる教員に、市内にどれだけの美術館・博物館があるのかについての知識を持ってもらえば、学校教育の中でどのように美術館・博物館を使っていくか考えやすいかもしだれない。
- ・本日配布されたチラシ「安曇野ミュージアムギャラリートークリレー」のような美術館・博物館を紹介するチラシを市に新たに移住してくる人に渡してはどうか。市内の美術館・博物館を知ってもらえる。

会長

- ・子どもたちが美術館・博物館に来ることについて大賛成。小さな子どもたちが普段遊びに来て、小学校、大学、それ以降、子育てやなにかしながら戻ってきてくれるような、回帰するような美術館・博物館であってほしいと思っている。一方で仕事が増えてしまうのはよくない。

飯沼飛行士記念館

- ・学校全体で美術館・博物館へ行くことが難しいということなら、土日などに児童と保護者に来館いただき、子供向けのギャラリートークをやるのも良いかも。子供たちに来館してもらえるきっかけになるのでは。

安曇野市美術館

- ・私は教員の出身であるが、教員がどのような時に教育現場に活用しようと思うかというと、教員自身が面白み、価値を感じたときである。やはりマニュアルを超えた総合的な学習に本当の学習があつて、子供たちものめり込んでいくと思う。まずは先生方に興味を持っていただくために、美術館・博物館側の役割が重要と感じた。

会長

- ・市に異動してくる先生に対する研修の1つとして、少なくとも博物館・美術館を1つは見てもらったり、市の歴史を理解してもらうなどを考えていただけたら。

事務局

- ・新任の先生に対しては、新人研修という形で美術館・博物館等へ行って見学いただく機会を設けている。転任の先生に対しては他の部署等で同様な機会を設けているようなので、そこに美術館・博物館も入れてもらえると良いかと思う。

委員

- ・安曇野市では10月に美術館・博物館無料開放の日がある。両親がそういうことに关心があるかないかで、子どもを連れていく機会に差が出てくると思う。なかなか難しい。

会長

- ・親に対する教育をしっかりすることが、美術館・博物館へ子供を連れてくる1つの契機になりそう。PTAでの講演会など、いろんな方策を考えてみたい。

豊科郷土博物館

- ・学校の帰りに子供たちが寄ってくれるような敷居の高くない博物館にしたい。小さい子供が来て遊べる空間を作つてある。
- ・現状、小学生・中学生は無料で、付き添いの親も無料になるが、未就学児はそのようになつてない。未就学児も同様の扱いになつてほしい。

事務局

- ・未就学児と親の無料化についてはまた検討させていただきたい。
- ・市の情報を知つていただく手段として、広報誌の他に、LINEもやつてある。LINEは4万数千人の方にご登録をいただいている。

委員

- ・豊科郷土博物館のブックレットを読んだが、とても良い内容だった。ブックレットは書物として制限がある。県外在住者も比較的容易に入手できるような、公刊などの形は難しいか。それぐらい素晴らしい内容だと思う。

会長

- ・出版業界は厳しい状況であり、出版社に持ち込んでも難しい。よつて、周囲にできるだけブックレットを宣伝して、在庫が無くなつたので増刷するという流れにもつていく方が手つ取り早いかと思う。

5 閉 会

以上

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。